



発想を変える  
私たちが変わる  
世界を変える

# PARC 自由学校 2021

*Pacific Asia Resource Center Freedom School 2021*



# PARC自由学校2021講座一覧

Pacific Asia Resource Center Freedom School 2021

**連続講座** ひとつのテーマにつき複数回かけて学んでいきます。開催方法は大きく分けて3タイプ。

## オンライン レクチャー

厳選された講師によるお話しをたっぷり聞ける講義形式の連続講座です。受講者はカメラ・マイクなしでご参加いただけます。

**01** パンデミックを超えて  
ポスト・グローバル  
資本主義への道

**02** 樋口健二  
売れない写真家が見つめた日本の闇

## オンライン参加型講座

全国の参加者と一緒に学ぶ、つながる、議論する参加型の連続講座です。質疑応答や議論の時間には、なるべくカメラ・マイクをつないでいただき、テーマについて議論を深めていきます。

**03** カウントダウン・気候危機  
—全員で生き残れるトランジションを考える

**04** 【大江正章さん追悼講座】  
地域主義とコモンズ—農と食が紡ぐ希望

**05** 平和のための日韓市民連帯  
—文化・人権・格差から考える

**06** 軍事化される琉球弧  
—現地から問う「平和」と民主主義

## オンライン読書ゼミ

**07** 著者と読む『身の丈の経済論：  
ガンディー思想とその系譜』

**08** 『資本論〈入門〉』  
—現代経済をマルクスの視点で理解するために

## オンライン英語講座

**09** ケイトの  
”What's Happening In The World!?”

**10** 武藤一羊の英文精読

**11** 世界のニュースから  
国際情勢を読み解こう

## 〈関東近郊の方におすすめ〉 オフライン講座

教室やフィールドに集まり、  
五感を通して学ぶ、対面型講座です。

**12** 近代の民衆暴力  
—何が人びとをつき動かしたのか

**13** 畑で実践!!  
〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

**14** ビオダンサ：  
いのちといのちが出会うとき

**15** 表現することは生きること

**オンライン単発講座** どなたでも、ご希望の回を1回から、オンラインでご参加いただけます。

〈特別講座1〉  
時代・社会を問い続ける者たち

〈特別講座2〉  
アフリカの経験に学ぶパンデミック対策  
—「健康」を人々の手に取り戻すために

# 01

## パンデミックを超えて ポスト・グローバル資本主義への道



1980年代以降、新自由主義に基づく市場経済、規制緩和、自由貿易がさらに拡大し、その弊害としての格差や地域経済の衰退は世界各国・各地でますます深刻になっています。また、経済のグローバル化に伴い、その反作用としての極右勢力や権威主義的な政治、そして米中を軸にした覇権争いも起こってきました。その上に2020年、新

型コロナウイルスが蔓延し、世界はさらに見逃せない状況となりました。しかし、コロナ禍で明らかになったのは、貧困と格差を生み出し、民主主義をも後退させてきたグローバル資本主義の矛盾と限界です。世界各国・各地で生まれている持続可能な経済・社会をめざす思想や運動から学び、日本の課題も含めて考えます。

2021年7月～11月(予定)

原則として金曜日 19:00～21:00

●全9回●受講料:15,000円(U25割:5,000円)

コーディネーター:

内田聖子 (PARC 代表理事)



WTO や FTA/EPA 等の自由貿易協定の監視・提言を行う。編著に『自由貿易は私たちを幸せにするのか?』コモンズ 2017/『コロナ危機と未来の選択—パンデミック・格差・気候危機への市民社会の提言』コモンズ 2021(近刊)

7月2日(金)

環境正義を実現するために

—グリーン・リカバリーの限界と希望



井田徹治 (共同通信社 編集委員)

新型コロナウイルス禍からの復興のために各国でなされる巨額の投資によって、今の世界を根本から変え、持続可能な社会と経済を作ることが求められます。それを可能にするには何が必要なのでしょう。

10月8日(金)

ワクチン・ナショナリズムを超えて

—公正な保健・医療アクセスを実現するには?



金杉詩子

(国境なき医師団日本 アドボカシー・マネージャー)

貧しい国や紛争地、難民や移民——すべての人に必要な医療が行き渡らなければパンデミックは終わりません。「公平な医薬品アクセス」を求める世界の動きをご紹介します。

©Mariko Tagashira

7-8月で調整中

岐路に立つ米国

—「多様性」というバイデン政権の格差是正の行方



北丸雄二

(元東京新聞ニューヨーク支局長/ジャーナリスト)

就任以来トランプ主義の修正と軌道復元を急ぐバイデン政権ですが、その政策はコロナ対策とトランプ主義の“名残”によって困難を極めます。新政権の推力源たる「人種」と「ジェンダー」「セクシュアリティ」の現在をお話します。



稲場雅紀

(アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター/PARC 理事)

コロナ危機は、人類社会が「地球の限界」を踏み越えてしまったことを示しています。「独占と競争」から「共有と連帯」への変革に、私たち自身の生存がかかっています。

10月20日(水)

なぜ、脱・資本主義でなければならないのか?

—公正なトランジションに向けて



斎藤幸平 (大阪市立大学大学院 准教授)

差し迫った気候危機に公正さをもって対応するには資本主義そのものを見直さなければなりません。マルクスに立ち返ってこの問題を考えましょう。(※「03. カウントダウン・気候危機—全員で生き残れるトランジションを考える」講座と合同で開催します。)

7月30日(金)(予定)

ケアと資本主義—エッセンシャルワーカーを可視化する



岡野八代 (同志社大学大学院 教授)

わたしたち一人ひとりには皆、「誰かお母さんの子ども」。この事実から政治を見つめなおし、資本主義の矛盾を問い、なにを変革すべきかをみなさんと考えたいと思います。

10月29日(金)

日本における「新しい階級社会」とアンダークラス



橋本健二 (早稲田大学人間科学学術院 教授)

経済的・社会的格差の拡大によって、日本は、資本家階級を頂点に、労働者階級を底辺とする従来の構造の最底辺に、新しい下層階級＝アンダークラスを集積させる新しい階級社会の性格を強めています。その問題点について考えていきます。

9月10日(金)(予定)

ブラック・ライブズ・マター(BLM)運動の射程と21世紀の人種



藤永康政 (日本女子大学 教授)

人種間の和解を象徴したオバマの時代にBLMは生まれました。本講義は、21世紀のアメリカでの人種の意味の変遷を辿りながら、BLM運動がアメリカ史のなかで持つ意味についてお話します。

11～12月で調整中

特別オープン講座

脱グローバル主義時代への転換期—国家・地域・民主主義

9月24日(金)

ブラジル民衆の抵抗運動から学ぶ民主主義のレッスン



下郷さとみ (ジャーナリスト)

世界でも有数の格差社会ブラジル。一方で逆境を跳ね返す市民のたくましい抵抗運動がある。ファベラ(スラム)住民が展開する運動を通して、民主主義のあり方を一緒に考えましょう。



柴山桂太 (京都大学大学院人間・環境学研究所 准教授)

グローバル主義が民主主義を空洞化させ、国内の利害調整が機能せず、国際政治・社会そして人びとの間に深刻な歪みと分断を引き起こしている。この状況を打開するためのキーワードは、「国家・地域・民主主義」である。世界の潮流と日本の現状をつなぎ、目指すべき方向を考える。(※特別オープン講座のため、この回のみ参加される一般参加者との合同受講となります)



# 02 樋口健二 売れない写真家が見つめた日本の闇

原発労働者の被曝、公害に苦しむ人びと、戦争の傷跡、自然破壊などを半世紀以上にわたって記録してきた報道写真家・樋口健二さん。84歳。自身は「売れない写真家」を名乗るが、日本人として初めて「核なき未来賞」を受賞するなど、世界的に評価が高い。フォト・ルポルタージュの軌跡を、圧倒的な語りによって振り返る、オンラインの新講座。

ロバート・キャパ、ユージン・スミス、セバスチャン・サルガドなどの写真家との出会い、若き写真家を育てる愛情や、表現の自由をめぐる闘い、失われゆく風景の記録など、樋口さんの知られざる素顔についても語っていただきます。案内はジャーナリストの永田浩三さんに務めていただきます。

2021年6月～11月 月曜日 19:00～21:00 ●全8回●受講料:20,000円(U25割:5,000円)



講師:樋口健二  
(フォトジャーナリスト/日本写真芸術専門学校 副校長)

キャパに触発されてカメラマンになった私は、いつも労働者や農民の側に立ち、闇に消される人々を撮ってきました。初めから売れない写真家を目指したわけではありません。国家や企業と闘うなかでそうなったのです。歳月を振り返り、時代を記録するとは何かについてお話しします。

## profile

1937年長野生まれ。62年東京総合写真専門学校卒業。同校助手を経てフリー。69年に四日市公害を撮った「白い霧との闘い」写真展を開催。以降半世紀にわたり、公害、戦争の傷跡、原発被曝労働など、高度経済成長する日本社会の影をとらえた報道写真を発表し続け、国際的注目を集める。

写真集:『四日市—樋口健二写真集』六月社書房 1972 / 『原発崩壊1973年～2011年』合同出版 2011 / 『増補新版 樋口健二報道写真集成 日本列島1966-2012』こぶし書房 2012 ほか多数



コーディネーター:  
永田浩三(武蔵大学 教授/ジャーナリスト)

写真の1枚1枚に、人生の深いひだや構造的な差別が貼り付いています。樋口さんには、その物語を熱く語っていただきます。わたしはこの春、樋口さんを主人公にしたドキュメンタリー『闇に消されてなるものか』を制作しました。映像だけに閉じ込めておくのはもったいなくて、この個性的な講座を幅広く参加いただけるオンライン形式で行います。

## profile

1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。編著書に『フェイクと憎悪』など。ドキュメンタリー映画『闇に消されてなるものか』を制作。

『ヒロシマを伝える 詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016 / 『奄美の奇跡』WAVE出版 2015

## 6月21日(月) わたしの写真事始め

八ヶ岳山麓、標高1000メートルのレタス農家から上京。川崎の製鉄所で働くようになった時、銀座での「ロバート・キャパ展」との出会いが運命を変えた。樋口さんの最初の写真集は公害とがっぴり向き合った「四日市」だった。



## 9月13日(月) 壊されゆく日本列島①

夕張や三井三池で起きた炭鉱事故、油濁の海と化した瀬戸内海、じん肺、土呂久のヒ素鉱毒、日本の経済は、さまざまな産業を支える人々を踏みつけながら発展した。そこで奪われ、失われたものは何だったのか。

## 7月5日(月) 戦争の傷跡を見つめる

四日市喘息より、もっと症状が重い人がある。それを聞いて訪ねた先は瀬戸内海の「大久野島」。アジア・太平洋戦争中、毒ガス兵器を作っていた。その後、樋口さんは戦争で心からに傷を負い、人生を奪われた元兵士たちを追った。

## 9月27日(月) 壊されゆく日本列島②

千葉のダンプ街道は13年、諫早湾は16年、南アルプススーパー林道は4年間記録した。イタイイタイ病は対馬でも発生し、人びとを苦しめていた。世界遺産フィーバーの影で、屋久島や白神山地では環境破壊が進行していた。

## 7月19日(月) 闇に消される原発被曝者①

敦賀原発での作業の後、右足に異変が起きた岩佐嘉寿幸さんは、日本で初めて企業や国を相手に訴訟を起こす。結果は全面棄却だった。樋口さんはまた、同じ敦賀の炉心部で働く人びとを、世界で初めて撮影し、世に知らせることに成功した。



## 10月18日(月) JCO臨界事故と福島第一原発事故

樋口さんは臨界事故翌日に東海村に入る。事故現場から120メートルのところに住む大泉夫妻は、重症の皮膚炎などに見舞われ、裁判を起こすが敗訴。樋口さん自身も健康被害に見舞われる。2011年、ドクターストップを制して、原発事故後の福島へ向かった。

## 8月30日(月) 闇に消される原発被曝者②

原発内で被曝し、死亡してもデータは改ざんされた。裁判は企業の手で潰された。原発労働は差別そのもの。樋口さんは、筑豊炭鉱閉山後、福島第一で働き被曝、再び筑豊に帰郷した人々も記録した。

## 11月1日(月) 日本の風景・町並みを見つめる

樋口さんは四季折々さまざまな顔を見せる富士山を記録し続けてきた。日本地図に訪れたところを赤くマークしたら、いつの間にか真っ赤になった。いまや風前の灯の日本の町並みや山河。その最後の輝きを慈しむ、膨大な写真の数々。

# 03 カウントダウン・気候危機

## —全員で生き残れるトランジションを考える

気候危機はすでに差し迫ったものになっており、世界中で気象パターンの変化や大型台風、集中豪雨、干ばつなどの気候災害が頻発するようになってきました。しかし、その被害は決して均一ではありません。一部の人が大きな被害を受け、一方で気候変動を肌で感じられない国や地域も少なくありません。

対策についても同様です。世界中で気候危機対策が叫ばれる中で、取り残される地域や破壊される生態系があり、その犠牲の上に住みよい低炭素生活を謳歌する人びとがいるのです。

この気候危機がもたらす不正義を是正し、全員で公正に生き

残れる低炭素社会への移行(トランジション)は可能なのでしょうか?本講座では気候危機によって不当に大きな被害をすでに受けているコミュニティ、対策のために追い詰められるコミュニティからの声に耳を傾け、あるべき大転換を一緒に考え議論します。

2021年7月～11月 水曜日19:00～21:00

●全7回 ●定員50名

●受講料:15,000円(U25割:5,000円)

※海外のゲストが報告する回では毎回逐次通訳が入ります



コーディネーター:田中 滋 (PARC 事務局長)

気候危機はもはや未来のことではなく、すでに被害者を生んでいる問題です。そしてさらなる深刻化を防ぐためのカウントダウンはすでに始まっています。しかし、同時に早急な対策は別の問題も引き起こします。多様な視点で気候危機をとらえ、公正な未来のあり方を一緒に考えましょう。

7月7日(水) 気象災害の被災者はだれか?



橋本 淳司

(水ジャーナリスト/アクアスフィア・水教育研究所 代表)



谷 洋一

(NPO 法人水俣病協働センター / 水俣病被害者互助会)

2020年7月、九州各地を豪雨が襲い甚大な被害をもたらしました。20世紀に国策として工業化が進められ、その恩恵を国民が幅広く受けながらも、気候危機で真っ先に被害を受けるコミュニティの一つは熊本の人びとでした。この構図は水俣病を彷彿とさせます。国策で工業が推し進められ、被害は東京から遠く離れた場所で甚大なものとなりました。どちらの災害も身近で見えて来た支援者から報告いただくとともに、全国的な治水格差の実態についてご報告いただきます。

9月22日(水) 電気自動車が減ぼす生態系



Grizelda Mayo-Anda

(環境法律支援センター/ELAC)

フィリピン・パラワン島は手つかずの自然が残っている「最後のフロンティア」と言われています。そしてそこは低炭素社会への移行のカギになる鉱物を多く宿しています。低炭素社会を目指して開発が進めば島の破壊は取り返しのつかないものになるでしょう。

10月6日(水)

「いのち」を破壊しては地球を救うことはできない



Carlos Zorilla (DECOIN)

エクアドルでも低炭素社会に必要な鉱物をめぐって大規模な鉱山開発が進められようとしています。「社会全体のトランジションのためには多少の犠牲はやむを得ない」のでしょうか?その考え方の向こうに待つのは恐ろしいディストピアです。

7月21日(水) 狂う暦、困る農家



Esther Penunia (アジア農民連合)

突然の気象災害はもちろんのこと、それ以外にもわずかな降雨パターンの変化や気温の変化によっても農家は大きな影響を受けます。地域に根差して、その地固有の農法を伝統的に引き継いできた小農ほどその被害は大きくなります。アジアの小農が日々直面する事態をご報告いただきます。

10月20日(水) なぜ、脱・資本主義でなければならないのか? —公正なトランジションに向けて



斎藤 幸平 (大阪市立大学)

差し迫った気候危機に公正さをもって対応するには資本主義そのものを見直さなければなりません。マルクスに立ち返ってこの問題を考えましょう。(※「01. バンデミックを超えて—ポスト・グローバル資本主義への道」講座と合同で開催します)

9月8日(水)(予定) 転換に見捨てられる人びと

交渉中

米国東部のアパラチア山脈。石炭や天然ガス採掘で知られる米国における「見捨てられた地域」の一つです。歴史的に人種差別も激しいこの地域で黒人として暮らすことは何を意味するのか?バイデン政権が気候危機対策を最重要課題の一つに据えた状況を人びとはどのように受け止めているのでしょうか?

11月10日(水) 考えよう! 資本主義断捨離計画



Judith Hitchman (Urgenci / 社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク 共同代表)

地球規模の気候システムに甚大な破壊をもたらした資本主義経済はもう続けていけません。どうしたら私たちは経済の歯車になり続けることを止めて、社会を変えていく主体になれるのでしょうか?—一緒に対策を考えましょう。



コロナ禍の中で、私たちは「農」と「食」を改めて見直す必要に迫られています。

便利で快適な生活を追い求め、化石燃料と原子力発電に依存した大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とする社会、そして都市一極集中。このような産業・生活のあり方を根本から変えるためのビジョンは「都市農村共生社会」であり、その核となるのは「地域」そして「有機農業」であると、2020年12月に亡くなっ

た大江正章さん (PARC 共同代表・コモンズ代表) は論じました。

この講座では、地域主義・自治・有機農業を柱に、持続可能な社会に向けての課題と展望を、各地で農と食に関わり実践する方々にお話いただきます。全国の参加者同士の情報交換やネットワークづくりも目指します。

6月25日(金)

身の丈文明は可能だ — コモンズからコモンズへ



**勝俣 誠**(明治学院大学 元教員)

他者と自然を傷つけないで何とか生きていける世界の入り口の数ある一つを提示してみます。前半は問題提起と切り口提示。後半は自由討論。私語・雑談歓迎。

6月29日(火)

有機農業を軸に日本農業を持続可能な方向に転換する



**谷口吉光**(秋田県立大学 教授 / 日本有機農業学会 会長)

有機農業の面積を30年以内に40倍に増やす。こんな驚きの数値目標を農林水産省が公表しました。日本にも有機農業が広がるのでしょうか。皆さんと一緒に考えましょう。

7月6日(火)

有機農業の現場から — 福島から地域と世界を考える



**浅見彰宏**(NPO法人福島県有機農業ネットワーク 代表)

震災でコミュニティが破壊され、過疎、離農などの課題先進県となってしまった福島で、農業を通して見えてきた課題と対策を皆さんと一緒に考えます。



**菅野正寿**(NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 / 農家民宿「遊雲の里」)

3.11の教訓はなんだったのか、持続可能な社会のありかたを一緒に考えます。そしてコロナ禍でも健全な暮らしのある農業と農村の価値を伝えたいと思います。

7月27日(火)

変わりゆく都市農業・農地の位置づけと役割



**澤登早苗**(恵泉女学園大学 教員 / 日本有機農業学会 元会長)

都市農地は、「宅地化するべきもの」から今や「あるべきもの」として位置づけられているが、2022年以降大幅に減少するかもしれない。その背景と市民が耕す都市農業の新たな可能性について考える。

9月7日(火)

地域に希望あり! — 学校給食の有機化を核にしたコモンズ再生



**鮫田 晋**  
(千葉県いすみ市 職員)

**安井 孝**

(愛媛県今治市 元職員 / NPO法人  
愛媛県有機農業研究会 理事長)



いま全国各地で、地場産の食材や有機農産物を学校給食に取り入れようとする動きが急速に広がっています。その先駆的な事例である愛媛県今治市、千葉県いすみ市の現場で動いてきたお二人に、成功の秘訣、苦労した点、地域社会への影響などお話を聞きます。

2021年6月~11月

原則として火曜日19:00~21:00

●全9回 ●定員50名

●受講料: 15,000円 (U25割: 5,000円)



9月21日(火)

韓国・ソウル市のフード・プランと市民社会



**姜 乃榮**(地域ファシリテーター / 慶熙大学フマニタスカレッジ 講師)

新型コロナウイルスなど災難が日常になっている社会で安全安心の生活を確保するためには、農と食を基本にして地域を再構成することが大事ではないでしょうか。一緒に考えてみましょう。

10月5日(火)

食品ロス、貧困問題の解決と地域の助け合い  
— フードバンクかながわの取り組み



**藤田 誠**(公益社団法人フードバンクかながわ 事務局長)

フードバンクかながわは、「もったいない」を「分かち合い」~「ありがとう」へ」を目的に2018年2月に設立した公益社団法人です。経緯と現状、コロナ禍での活動状況についてご報告します。

10月19日(火)

食料主権と小農の権利を! — 自由貿易・種子の独占に抵抗するグローバル・サウスの運動



**岡崎衆史**(農民運動全国連合会 事務局次長)

食料主権や農民の権利を提唱し、国際政治を動かしてきた「ピア・カンパシーナ」の活動を紹介します。自由貿易や食と農について考えていきたいと思います。



**内田聖子**(PARC 代表理事)

グローバル経済が、各国の農業・食料政策に直接打撃を与える時代、最期の砦となるのは地域、自治体です。(コモン)を守る世界の運動に学びます。

11月で調整中

食・農・地域を育む思想



**藤原辰史**(京大大学人文科学研究所 准教授)

20世紀の農業史からは「食と農」が「効率と利潤の追求」に支配されてきたプロセスが浮かび上がります。私たちの命と直結する「農と食」のあり方を豊かで尊厳あるものにするための方途とは。

# 05 平和のための日韓市民連帯 —文化・人権・格差から考える

隣の国の社会や文化とともに市民活動について学び、市民目線で平和関係を築くための議論と交流を深める人気講座「平和のための日韓市民連帯」の第2弾です。2021年度は、人権、貧困と格差、雇用、福祉の問題に焦点を当て、知っているようで知らない隣の国韓国の運動最前線や、そこに通底する韓国文化まで、包括的に学んでいきます。

韓国市民社会の取り組みに学び、自らを省みることで、日韓の友好関係を平和で公正な社会を市民からつくる方法を考えましょう。

2021年7月～10月

原則として木曜日19:00～21:00

●全8回 ●定員50名

●受講料: 15,000円(U25割:5,000円)



コーディネーター:白石孝  
(日韓市民交流を進める希望連帯 代表/ PARC 理事)

日韓市民交流を進める希望連帯代表、NPO 法人官製ワーキングブア研究会理事長、NPO 法人日本ラオス子どもの未来理事長など。ソウル市の革新的自治政策をはじめ韓国の民主政権や自治体が普遍的福祉政策を進めていることを日本に紹介する活動を進めている。  
主著:『ソウルの市民民主主義—日本の政治を変えるために』コモンズ 2018  
訳書:キム・イエスル著、白石孝 日本語版監修・解説『写真集 キャンドル革命—政権交代を生んだ韓国の市民民主主義』コモンズ 2020

7月1日(木)

日韓の社会運動、労働運動を比較して



アン ジュヨン  
安 周永(龍谷大学政策学部 准教授)

他の欧米の国でも民主主義の危機が言われており、こういう時だからこそ、社会運動と労働運動が再注目されています。日韓における社会運動と労働運動の可能性について一緒に考えましょう。

9月29日(水)

食文化を通して韓国をもっと知ろう



チャン クムスン  
張 琴順(韓国料理研究家/キムチソムリエ/フードコーディネーター)

食べ物を知ることはその国の文化を理解できることと思います。一番近い隣国、韓国の食文化を深く知ることによって食卓で会話や新たな発想が生まれることでしょうか。異文化の理解は食卓から。日本と韓国の食の類似点や違いなども知ると面白いですね。

7月15日(木)

キャンドル革命の現在地と社会運動



チョン ウン  
千 雄昭(参与連帯 事務局長)

2016年10月から17年4月までの市民民主主義革命で、政権交代を実現しましたが、民主政権下でさらにどう改革が進んでいるか、韓国最大の市民社会運動の立場から語っていただきます。

10月14日(木)

新型コロナ災害で押し寄せた社会の危機 いま私たちにできることは「社会運動としての連帯ネットワーク」  
韓国の住民連帯運動と比較して



瀬戸大作(反貧困ネットワーク 事務局長/新型コロナ災害緊急アクション 事務局長)

貧困格差を作り出した加害者たちの「自助の補完装置」でない「希望の連帯協同組合」をつくる準備をはじめよう。新自由主義の被害者である当事者が参画した「社会運動としての連帯協同組合」をつくらう。

8月5日(木)

徴用工・慰安婦訴訟とどう向き合うか  
日韓の接点を模索する



堀山明子(毎日新聞 前ソウル支局長)

盧武鉉政権と文在寅政権でソウル特派員を務め、戦後補償問題の現場取材してきた記者の視点で、日韓の外交的解決と法的解決の接点はどこにあるのかについて報告します。

10月28日(木)

日韓市民連帯運動をどう進めるか



イ ジョンヨン  
李 正連  
(東京大学大学院教育学研究科 准教授)

カン ネヨン  
姜 乃榮(地域ファシリテーター/慶熙大学フマニタスカレッジ 講師) ゲスト:社会福祉士

白石孝  
(日韓市民交流を進める希望連帯 代表/ PARC 理事)

この10年で学ぶ関係が逆転した韓国と日本の社会運動。それをふまえて明日の日韓連帯を3人の鼎談で考えます。

8月26日(木)

韓国映画の今 —もっと知ろう韓国映画



成川 彩(韓国在住映画ライター)

韓国映画は実話をモチーフにした作品が多く、韓国の歴史や社会を知るきっかけを作ってくれます。民主化運動など、ダイナミックな韓国の現代史を映画を通して学んでみませんか?

9月9日(木)

韓国の脆弱階層対策 —福祉の現場から



カン ネヨン  
姜 乃榮(地域ファシリテーター/慶熙大学フマニタスカレッジ 講師) ゲスト:社会福祉士

生活保護バッシングや水際作戦を続ける日本とは対照的に、韓国では福祉事業の掘り起こし、貧困者を孤立化させない取り組みが進められています。その実情を伺いつつ、セーフティネットのあるべき姿について考えます。

# 06 軍事化される琉球弧 — 現地から問う「平和」と民主主義

沖縄での基地問題という、辺野古の問題がしばしばクローズアップされますが、その裏で、「島嶼防衛」の名のもとに、南西諸島への自衛隊配備が急速に進められています。この問題につき、私たちの考える安全保障のあり方について、現場の声も聞きながら、現状を理解しましょう。

2021年6月～2022年1月

金曜日 19:00～21:00

●全8回 ●定員50名

●受講料：15,000円(U25割：5,000円)



沖縄島

馬毛島

種子島

奄美大島



コーディネーター：池尾靖志  
(立命館大学他 非常勤講師)

関西にあるいくつかの大学で、平和学・国際政治学・政治学などを教えています。実際に自分の目で見て、「確かだ！」と思う情報しか講義や講演では話さないことをモットーにしています。実際に、高江のヘリパッド建設では私も1参加者として関わってきました。最近、離島の自衛隊配備の問題を考えていますが、これらは沖縄「本島」の基地問題とも密接に関わっています。これらのことを『沖縄の「負担軽減」と日米軍事一体化』(法律文化社、近刊)という形で今、執筆を行っています。この『沖縄の「負担軽減」と日米軍事一体化』講座が始まる頃までに出版する予定です。

6月18日(金)

軍事化される「琉球弧」の現状

池尾靖志(立命館大学他 非常勤講師)

沖縄の問題と言うと、「辺野古」の問題がピンとくるかもしれませんが、沖縄「本島」だけでなく、周りの離島でも軍事化が加速しています。これらの問題をトータルに把握しましょう。

7月9日(金)

北部訓練場返還地の米軍廃棄物問題



宮城秋乃(アキノ隊員)(チョウ類研究者)

2016年に返還された北部訓練場跡は沖縄防衛局により支障除去が行われ地権者に引き渡されたが、その後大量の米軍廃棄物の残留が判明。この地域は世界自然遺産になれるのか。

9月3日(金)

宮古島全島の軍事要塞化



清水早子

(ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会 事務局長)

サンゴ礁の観光の島に、2019年「陸自宮古島駐屯地」開設。2020年150台以上の軍用車両と共にミサイル部隊が配備された。「作らないと言っていた弾薬庫」は民家から100mも離れていない場所に建設。その実態をさぐ。

10月1日(金)

「馬毛島で、種子島で、何が起きているのか？」

現地からの報告



和田香穂里

(前西之表市議/馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会/戦争をさせない種子島の会)

種子島の暮らしとともにある馬毛島は決して単なる無人島ではない。自衛隊基地建設と米軍FCLP計画が種子島と馬毛島を、更に種子島の島民同士を引き裂く現状を知ってほしい。

11月5日(金)

石垣島の住民投票



金城龍太郎

(マンゴー農家/石垣市住民投票を求める会 代表)

民意が問われないまま進む陸自配備計画の現状、そして民主主義とは何かを住民投票を求める立場、地域を担う立場から語る。

12月3日(金)

奄美大島における自衛隊配備

池尾靖志(立命館大学他 非常勤講師)

奄美大島では、すでにある航空自衛隊の分屯基地に加えて、2019年3月、陸上自衛隊奄美駐屯地、瀬戸内分屯地が開設した。これに加えて、現在、新たな基地が建設されるとのことである。この他、沖縄からオスプレイが飛行訓練に訪れたり、奄美空港にも米軍ヘリが緊急着陸したり、自衛隊が使用したりしている。こうした現状をお話する場合によっては、現地からの報告もしていただく予定です。

2022年1月7日(金)

南西諸島へのミサイル配備を考える



半田 滋(防衛ジャーナリスト/獨協大学 非常勤講師/法政大学 兼任講師)

南西諸島で進むミサイル部隊の配備について、防衛省・自衛隊の狙いなどを話します。

2022年1月28日(金)

生活者の視点から見た安全保障のあり方を考える

池尾靖志(立命館大学他 非常勤講師)

これまでの現地報告や日米安保体制の現状に関する講義を踏まえて、生活者の視点から見た安全保障のあり方を受講生みなさんと考えます。



# オンライン読書ゼミ



【講義の進め方】 少人数制・参加型のオンラインゼミです。初回オリエンテーションの後、一回につき一章を読み進めていきます。毎回1-2名の方に概要をまとめていただき、発表いただきます。その後講師からの解説と質疑応答・ディスカッションを行います。

## 07

### 著者と読む『身の丈の経済論：ガンディー思想とその系譜』

脱成長の時代におけるほんとうの豊かさとは何でしょうか。大量生産・大量消費と環境破壊が進むなかで、人間と人間、人間と自然とのより豊かで自立共生的な関係を追求したガンディーの思想と実践を軸に、持続可能な社会への転換を探る『身の丈の経済論：ガンディー思想とその系譜』を著者の石井一也さんと読んでいきます。



講師：石井一也（香川大学法学部 教授）

大学院では、タイ児童労働のフィールド調査なども同時に行い、開発を批判的にみる研究をしてきました。今はもっぱらガンディー研究に専念し、西欧近代を乗り越える価値を探しています。地球という閉じられた空間において、人間が他者ととともにいかに生きてゆか、皆さんと考えてゆきたいと思います。

2021年8月～12月

原則として金曜日19:00～21:00

●全10回 ●定員20名 ●受講料：25,000円



【テキスト】石井一也『身の丈の経済論：ガンディー思想とその系譜』法政大学出版局 2014  
※テキストは事前に各自でご購入ください  
【参考文献】M. K. ガンディー著、田中敏雄訳『真の独立への道（ヒンド・スワラージ）』岩波文庫 2001／アジット・K. ダースグプタ著、石井一也監訳『ガンディーの経済学：倫理の復権を目指して』作品社 2010

- 8/6 オリエンテーション/自己紹介/序章 身の丈の経済論
- 8/27 第一章 ガンディーの生涯
- 9/10 第二章 ガンディー研究をめぐる論点
- 9/24 第三章 宗教観
- 10/8 第四章 経済思想の基本構造
- 10/22 第五章 チャルカー運動
- 11/2(火) 第六章 受託者制度理論
- 11/19 第七章 ガンディー死後の「ガンディー主義」
- 12/3 第八章 ガンディー思想と経済学
- 12/17 まとめとして 終章：ガンディー思想とグローバリゼーション

## 08

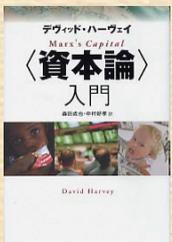
### 『資本論〈入門〉』—現代経済をマルクスの視点で理解するために

コロナ禍で経済的に困窮する人が多い中で、株価だけは日経平均3万円を越える急騰。資本の動きと市民生活が極端に乖離する現代資本主義の様相をマルクスが見たらどのように考えるでしょうか？いまや資本の自己正当化は社会を侵食し、政治の至上命題は株価を上向かせることへと変貌しています。その一方で格差はいつになく増大しています。そして医療サービスなど、人々が生きるのに必要なものがないがしろにされています。高い株価は何の安心も提供してくれません。この時代をどう理解し、変えていくことができるのか？そのヒントは『資本論』にあるかもしれません。本講座ではマルクス主義地理学者として社会的公正の研究と社会運動にかかわってきたデヴィッド・ハーヴェイの解説書『資本論〈入門〉』をテキストにして、マルクスの『資本論』への理解を深めます。これは世界で最も読まれている『資本論』解説書の一つです。〈入門〉という名の分厚いテキストですが、読み進めた先に見える世界は今と少し違って見えてくるかもしれません。

2021年6月～2022年2月

火曜日19:00～21:00

●全14回 定員20名 ●受講料：28,000円



【テキスト】デヴィッド・ハーヴェイ著、森田成也・中村好孝訳『資本論〈入門〉』作品社 2011  
【推奨テキスト】カール・マルクス著『資本論』第一巻（版元、訳者の指定はありません）  
※テキストは事前に各自でご購入ください  
※マルクスの『資本論』を事前に読む必要はありませんが、お手元に用意していただき、課題テキストとともに読み進めることでさらに理解を深めることができます



講師：大屋定晴（北海学園大学経済学部 教授）

私は現在、大学の講義で『資本論』を教えつつ、ハーヴェイの著作も翻訳してきました。ハーヴェイも長らく『資本論』を教えてきた人です。彼の公開オンライン講義「『資本論』を読む」の内容をまとめたものが課題テキストになります。これを手掛かりに『資本論』の現代的意義を改めて考えてみましょう。

- 6/22 オリエンテーション/自己紹介
- 7/13 序章『『資本論』をどう読むべきか』
- 8/3 第1章「商品と価値」
- 9/28 第2章「貨幣とその諸機能」
- 10/12 第3章「資本の生成と労働力商品」
- 10/26 第4章「労働過程の弁証法と剰余価値生産」
- 11/9 第5章「労働日と階級闘争の政治学」
- 11/16 第6章「相対的剰余価値の生産と階級戦略」
- 11/30 第7章「機械と大工業Ⅰ—技術と諸契機の弁証法」
- 12/14 第8章「機械と大工業Ⅱ—機械と階級闘争のダイナミズム」
- 2022/1/11 第9章「剰余価値論から資本蓄積論へ」
- 1/25 第10章「資本主義的蓄積と貧困」
- 2/8 第11章「本源的蓄積と『略奪による蓄積』」
- 2/22 終章「省察と予測—資本主義の諸矛盾と恐慌」

## オンライン英語講座

※講座番号10,11の講座は、PARC 自由学校教室とオンライン、どちらの方法でもご参加いただけます。ご事情に応じて、受講方法を適宜切り替えていただくことも可能です。感染症の状況により、教室開催が困難な場合には、事態が収束するまでオンライン参加のみとする可能性があります。開講日2週間前になりましたら、講座実施方法について判断し、お申し込みいただいた皆さまにお知らせいたします。

# 09 ケイトの "What's Happening In The World!?"

インターネットのニュース記事や映像など、様々な英語のコンテンツを読んだり、見たりしながらインスピレーションを得て、議論していきます。

インドやオーストラリアでの環境保護運動を調査・研究する国際政治学徒で、ご自身も日本の自然や文化を愛するエコロジストのケイトさんを講師に、英語での表現を楽しみ、そして丁寧に学んでいきます。会話やエッセイ等を通して、自分の意見をはっきりと伝える力もつけていきましょう。講師が丁寧にサポートしながら進めるので、英語に苦手意識を持っている人でも安心の講座です。

2021年6月～12月

原則として隔週土曜日 13:00～15:00

●全12回／定員15名 ●受講料:38,000円



講師:ケイトリン・ストロネル

(NPO法人原子力資料情報室スタッフ／浅川金刀羅神社神主)

オーストラリア出身。高校生の時に交換留学生として初来日。慶應義塾大学大学院で政治学を専攻。その後インド・ネール大学で博士号を取得。神主、環境運動家など多彩な顔を持つ。3.11で原発の危険性に目覚め、現在はNPOのスタッフとして原発の世界を目指している。

【こんな人におすすめ!】 ◎環境問題や社会問題について英語でディスカッションできるようにになりたい方 ◎日本の社会・文化について英語で説明できるようにになりたい方

【日程】

第1回:6/19	第5回:9/11	第9回:11/6
第2回:7/3	第6回:9/25	第10回:11/20
第3回:7/17	第7回:10/9	第11回:12/4
第4回:7/31	第8回:10/23	第12回:12/18

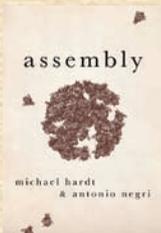
# 10 武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込む講座です。ことばの一つひとつの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年は、マイケル・ハートとアントニオ・ネグリの『アセンブリ(Assembly)』を読みます。

2021年6月～2022年1月

原則として隔週水曜日 19:00～21:00

●全15回 ●定員15名 ●受講料:46,000円



【テキスト】 Michael Hardt & Antonio Negri, "Assembly", Oxford University Press, 2017

※テキストは事前に各自でご購入ください。



講師:武藤一羊

(ピープルズ・プラン研究所 運営委員)

1931年生まれ。「ベトナムに平和を!市民連合」(ベ平連)での活動を経て、1969年に英文雑誌「AMPO」の創設メンバーとして日本の情勢を世界の社会運動に発信する。1973年、鶴見良行、北沢洋子などとともに「アジア太平洋資料センター(PARC)」を設立、1996年まで代表を務める。社会評論家としてノーム・チョムスキーなどの知識人、アジアを中心とする社会運動家と国際的な親交をもつ。

【講師からのメッセージ】 この講座では過去にネグリとハートの「Empire」(2002年度)、「Multitude」(2005年度)を読んだことがありますが、今年はこの超著名な著者たちの「Assembly」を読むことにします。今世紀10年代になってから、まったく新しい体制への抵抗の行動が、北米から、ヨーロッパ、中東、最近の香港、タイ、ミャンマーとアジアに拡大していますが、それらは「リーダーのいない運動」、全員参加による決定(assembly)という特徴がある。どのようにそれが持続的な民主主義をもたらすのか、そう著者たちは問題をたて、解答を探ります。この時代の根本問題と言えます。クラスではそれを著者たちとともに探っていきます。

【こんな人におすすめ!】 ◎一冊の本を深く読み込む力を身につけたい方 ◎グローバル化した資本主義の先の未来について考察・議論してみたい方

【日程】

第4回:7/28	第8回:10/13	第12回:12/8	
第1回:6/16	第5回:9/1	第9回:10/27	第13回:12/22
第2回:6/30	第6回:9/15	第10回:11/10	第14回:1/12
第3回:7/14	第7回:9/29	第11回:11/24	第15回:1/26

# 11 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論する講座です。開発、経済、貿易、食の問題など、日本や世界の情勢についてのトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そして溢れる情報を判断する力を身につけると同時に、様々なものの見方や考え方に会えることができます。今年は国際協力NGOの現場から、最新状況の報告もしていただく予定です。

2021年6月～2022年1月

原則として隔週火曜日 10:30～12:30

●全15回 ●定員20名 ●受講料:42,000円

【日程】

第1回:6/15	第4回:7/27	第7回:9/21	第10回:11/2	第13回:12/14
第2回:6/29	第5回:8/24	第8回:10/5	第11回:11/16	第14回:1/11
第3回:7/13	第6回:9/7	第9回:10/19	第12回:11/30	第15回:1/25



講師:廣内かおり

(アフリカ日本協議会 TICAD・国際保健担当コーディネーター)

市民団体のメンバーとして遺言組み換え問題やTPP問題等の翻訳・通訳に協力しながら、フリーランスとしても翻訳を行う。共訳書にリチャード・J・サミュエルズ『3.11震災は日本を変えたのか』英治出版 2016など。



講師:田中 滋

(PARC 事務局長)

米国コーネル大学大学院在学時からACORN (Association of Community Organizations for Reform Now)をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN 事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク(RIPESS)やアジア太平洋調査ネットワーク(APRN)など国際的なNGOネットワークの理事も担当。

※講師が分担してそれぞれの回を担当します。

【こんな人におすすめ!】 ◎日本ではあまり伝えられないニュースの裏側を知りたい方 ◎NGOや独立系メディア、批評家の視点や分析を知りたい方



関東近郊の方におすすめ

## オンライン講座

教室やフィールドに集まり、  
五感を通して学ぶ、対面型講座です。

# 12

## 近代の民衆暴力—何が人びとをつき動かしたのか

明治以降に起きた5つの騒擾。民衆は何に対して不満を爆発させ、反乱に及んだのか。日本社会は今も昔もおとなしいままなのか。それとも思いのほか爆発しやすい人びとなのだろうか。

話題の近著『民衆暴力』(中公新書)の著者の歴史研究者・藤野裕子と

ん的设计をもとに、新政反対一揆、秩父事件、日比谷焼き討ち事件、米騒動、関東大震災時の朝鮮人虐殺について、現場でのフィールドワークを交えながら、事件が浮き彫りにした日本社会の構造的な暗部について考えていく。

2021年6月～12月

月・金曜日19:00～21:00または土曜日

●全10回 ●定員18名 ●会場:PARC 自由学校教室ほかフィールド ●受講料:35,000円

6/4(金) 藤野裕子 (早稲田大学 准教授)  
イントロダクション:「民衆暴力」という視座



6/26(土) 上杉 聡 (市民のための人権大学院(じんけん SCHOLA)共同代表)  
新政反対一揆の中の被差別部落襲撃



7/10(土) 藤野裕子  
日比谷焼き討ち事件を考える



9/6(月) ツルシカズヒコ (元『週刊SPA!』編集長/フリーライター)  
1万人が参加した日本近代史上屈指の民衆蜂起・秩父事件



9/11(土) 【埼玉県秩父市を訪問】  
大野和興 (ジャーナリスト/日刊ベリタ 編集長)  
西沢江美子 (ジャーナリスト/秩父雑報自由学校 主宰)  
秩父事件を歩く—世直しにかけた民衆の情と知をさぐる



講師&コーディネーター:

永田浩三 (武蔵大学 教授/ジャーナリスト)

1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。

10/4(月) 瀬谷 実 (フリージャーナリスト)  
米騒動とは何か



10/25(月) 黒川みどり (静岡大学 教授)  
米騒動と被差別部落



11/8(月) <sup>キム ブジャ</sup>金 富子 (東京外国語大学 教員)  
関東大震災と「レイピスト神話」の創造



11/20(土) 【埼玉県さいたま市を訪問】  
関原正裕 (日朝協会埼玉県連合会 会長)  
埼玉県における朝鮮人虐殺 現場フィールドワーク



12/6(月) 藤野裕子  
おわりに:「民衆暴力」から何が見えてたか



# 13

## 畑で実践!! 〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

埼玉県の柳瀬川近くにある広々とした畑で、固定種・在来種の〈たねとリ[自家採種]を基本とし、農薬・化学肥料や有機肥料に頼らず、自然や土の力を生かした無肥料自然栽培の基本を実習で学んでいく実践講座です。農作業が初めての方でも、実際に作業を行いながら講座を進めていきますので無理なく続けられます。この道18年のベテラン講師の講習は家庭菜園を長く続けている方にも好評!〈たねまぎ〉から〈たねとリ〉まで、いのちのサイクルを感じる自然栽培をはじめてみませんか?

2021年3月～2022年2月

原則第1・第3日曜日9:00～12:00(予定)

●全23回 ●定員25名 ●菜園の場所:HSS 圃場 埼玉県富士見市(東武東上線 柳瀬川駅より徒歩15分程度) ●受講料 64,000円(指導料、農具・資材使用料、プランター代、保険料込) ●企画運営協力:H-seed to seed (HSS)



講師:関野幸生

無肥料自然栽培を始めて18年目。無肥料自然栽培の普及のため各地で講演活動を行なう。『固定種野菜の種と育て方』を飯能市の野口種苗研究所、野口勲氏と共著にて創森社より出版。

2021/3/18(木)19:00-21:00 オリエンテーション

畑での実践講習(予定)

2021/3/21  
4/4 4/18  
5/2 5/16  
6/6 6/20  
7/4 7/18  
8/1 8/22  
9/5 9/19  
10/3 10/17  
11/7 11/21  
12/5 12/19  
2022/1/16 1/23



2022/2/6(日)14:00-16:00 最終講習・ふりかえり

※日程、内容は天候等の状況に合わせて変更することがあります。ご了承ください。

キャンセル待ちのみ  
受付中!

# 14

## ビオダンサ：いのちといのちが出会うとき

ビオダンサ(Biodanza=いのちのダンス)は、南米チリの教育者、詩人、人類学者、心理学者のロランド・トーロが、人間の潜在力の回復を願って編みだしたダンス・ワークです。クラスで体験するエクササイズは、日々を生きていく力を呼び覚ますシンプルな動きが中心で、ダンス経験は問いません。活動と休息のバランス、ふと湧いてくる動き、心地よさやつながりの感覚。人が本来持っている様々な潜在力が、音楽、エクササイズ、グループという環境のなかで引き出され、花開いていくうちに、こころもからだも自然と潤い、調っていきます。生きるよろこびの源泉としての出会いを、ダンスはもっともシンプルな形でもたらしけるのです。

2021年7月～12月

原則隔週木曜日19:00～21:30

※内容によって終了時間が前後する場合があります

- 全13回 ●定員14名
- 会場:千代田区内(予定)
- 受講料53,000円

※出かける回は現地への交通費・食費・実費などが別途かかります



講師:内田佳子(国際ビオダンサ連盟)

ブラジルでビオダンサに出会い、2000年に初めてビオダンサを日本に紹介。定期クラスやワークショップを開催しつつ、自らも様々なワークや勉強会に参加し、心と身体をつなぐを探究し続けている。日本ソマティック心理学協会会員。同ソマティック・プラクティショナー・ネットワーク世話人。

- 7/8 プロローグ～あたらしいはじまり
- 7/22 リズムとたわむれる
- 8/5 自己調整の力を育む
- 8/21(土) 日帰りリトリート
- 9/2 心地よさとともに
- 9/16 出会いと創造
- 9/30 自然のエレメントを踊る
- 10/14 “Untitled”①
- 10/28 「型」からあふれだす力にふれる
- 11/11 慈しみと再生
- 11/25 個とコミュニティ
- 12/9 “Untitled”②
- 12/23 フィナーレ

# 15

## 表現することは生きること

今を生きる新しい視点が見え、ともに生きるエネルギーが湧いてくる、制作とアートヒストリーを組み合わせた講座です。

色々な意味で便利になった現代社会。しかし現代ほど人間が分断され、孤独を強いられる時代はないのでしょうか。アートは現代社会を反映し象徴するもの。アートという一見曖昧で感覚的な現われの中に、忘れられている大切なものが詰まっています。個人の思想や社会への問題提起から、スパッと割り切れない曖昧な感覚、戸惑い、矛盾や混乱、葛藤…。この講座では、「講義・解説」を聞いてアートを理解するだけでなく、〈感じる〉ことを人と共有・「ダイアログ」し、作品をつくることを通して表現の原点についてより深く知っていきます。アートを通じて何かしたい、人とつながりたい方だけでなく、美術やものづくりに苦手意識がある方にこそおすすめ。ひとりでは見えてこなかった視点や新しい自分自身を発見することができるでしょう。

2021年6月～12月

木曜日19:00～21:30または土・日曜日

- 全12回 ●定員14名
- 会場:PARC 自由学校教室ほか
- 受講料:48,000円(材料費・画材費込)

※出かける回は現地への交通費・宿泊費・食費・観覧会費などが別途かかります



講師:中津川浩章

(画家/アートディレクター/フリーキュレーター)

ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会を開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設工房集、アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、アートを通じたコミュニケーションスキル開発や美術教育にも携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、全国各地で活動。

- 6/17 リレーして絵を描く:  
「対話しながら一枚の絵を見てみよう」
- 7/8 「印象派とV・ゴッホとヨーロッパの近代」〈点描体験〉
- 7/17(土)【東京都美術館「イサム ノグチ」展を訪ねる】  
展覧会を見に行きその印象をダイアログ
- 7/29 プレゼンテーションと講評 その1
- 9/2 「夢・表現・シュルレアリスム、  
作家の田口ランディさんを交えて」〈夢ドローイング〉



ゲスト講師:

田口ランディ(小説家)

- 9/16 「自分って何だろう？」アートセラピー〈マンダラカラーズ〉
- 10/2(土)～3(日)【東京近郊で1泊2日合宿】「自画像は語る」
- 10/21 「イメージと記憶の交差点」〈自分だけの写真集〉
- 11/6(土)【埼玉県川口市・アート施設「工房集」を訪ねる】  
アウトサイダーアートの現場へ
- 11/18 講師と一緒にライブペインティング
- 12/2 「表現の本質って？」アールブリュット〈自由な素材で表現〉
- 12/16 プレゼンテーションと講評 その2

## オンライン単発講座

※どなたでも1回からご参加いただけます。  
※オンライン開催 (zoom を利用予定) の講座です。詳しい参加方法は申し込みいただいた方へ開催日2日前までにご案内いたします。

### 時代・社会を問い続ける者たち

独自の視点で社会を見つめ、半生をかけて活動や思想の積み重ね・発信を続けてきた講師は、今の時代に何を、何を問うのでしょうか。望む未来をつくるために、長年活動続ける講師の経験から学びます。

4月2日(金)19:00~21:00

原発事故後10年、2021年の福島からあなたへ

武藤類子

(福島原発告訴団 団長/原発事故被害者団体連絡会 共同代表)

10年が経過しても原発事故は収束すらしていません。被害は形を変えながら広がっていますが、それは視覚的にも被害者の意識にも、巧妙に隠されています。



●受講料: 各回1,000円

※25歳以下の方、生活困窮者の方は無料で受講いただけます。ご希望の方はPARC事務局 (office@parc-jp.org) までご連絡ください。

5月28日(金)19:00~21:00

平和と人権をまもる人間として立ちつづける

池住義憲 (元立教大学大学院 特任教授)

身を奮い立たせてくれたオランダNGOの一言、36年間のNGO活動、イラク訴訟とその後…。そして行き着いたのが、「ジャストピース」。こうしたことを、未来を創る人たちと共有したい。



4月30日(金)19:00~21:00

いのちの尊厳をバトンするために

安積遊歩 (ピア・カウンセラー/日本熊森協会 顧問/全国障害者在宅生活支援事業者連絡会 顧問)

骨が脆いという身体を持って40歳で同じ身体の特徴を持つ娘を出産。優生思想と戦い続け、障害を持つ人のみならず、動物を含むあらゆる命の尊厳の回復と解放を志向する。



6月11日(金)19:00~21:00

地域からの実践 — 生命の循環する地域を創造する

菅野芳秀 (農民・養鶏家/置賜自給圏推進機構 共同代表)

三里塚から50年。Aでの失敗をBで活かす。農民などの定住者にはそれができない。一つの失敗、信用の喪失はそのまま背負いつつ生きなければならない。そんな逃げ場のない地域実践50年からの学んだこと。



アフリカ日本協議会(AJF)共催企画

### アフリカの経験に学ぶパンデミック対策 — 「健康」を人々の手に取り戻すために

2020年、人類は過去の経験が通用しない新たな時代に投げ出されました。新型コロナ(COVID-19)は、世界の裂け目や弱い部分をあぶり出し、私たちは、保健・医療のみならず、政治・経済・社会の在り方や、人間と自然の関わりについて根底的な疑問に直面しています。パンデミックの時代をどう生き抜くか…。この講座で、エイズ、マラリア、エボラなどあまたの感染症と共存してきたアフリカに学び、新たな社会への指針を見出していきましょう。

●受講料: 各回1,000円



5月17日(月)19:00~21:00

【エイズ】南アフリカの経験に学ぶ  
— 歴史を切り開いた当事者たちの行動

津山直子 (アフリカ日本協議会 共同代表)

「コロナ差別」や検査・治療アクセスの課題を考えると、エイズの経験は大きな学びとなります。HIV陽性者運動が切り開いたエイズの歴史を、南アフリカを軸に振り返ります。



6月21日(月)19:00~21:00

【エボラ出血熱】複雑な国際情勢と社会環境の中で

仲佐保 (シエラ=国際保健協力市民の会 共同代表/元コンゴ民主共和国保健省派遣専門家)

エボラ出血熱を国内各地で経験してきたコンゴ民主共和国。保健省に席を得た日本人専門家が、援助に翻弄されつつも最前線で取り組むコンゴの専門家や人々の実像を語る。



6月7日(月)19:00~21:00

【マラリア】アフリカの人々は国際保健のトレンドを  
どう乗り越えてきたか

玉井隆

(アフリカ日本協議会 共同代表/東洋学園大学 専任講師)

国際保健の主要課題となったマラリア。一方、普段からマラリアに直面するアフリカの人々は、全く異なったやり方でマラリアと関係し、生存戦略を立てている。現場からの報告。



7月5日(月)19:00~21:00

新型コロナとグローバル・ヘルス—国際保健政策を人々の  
手に取り戻すために

稲場雅紀

(アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター/ PARC 理事)

新型コロナの被害の背景には、人々の健康と公衆衛生・公共医療がともにやせ細っていた現実がある。健康を人々の手に取り戻すには何が必要か。アフリカの経験から考える。



※本講座はアフリカ日本協議会(AJF)との共催講座です。

# 全国の自由学校ネットワーク

自由学校は学びの草の根ネットワークです。全国各地でそれぞれの地域に根差した個性的な自由学校が開講されています。また「自由学校」と名乗ることがなくても、地域で市民のための学びの場を提供する取り組みは全国に多数あります。ここではそのいくつかをご紹介します。



## A. さっぽろ自由学校「遊」2021年前期（4～9月）開講講座のご案内

さっぽろ自由学校「遊」は、札幌に拠点を置く「市民がつくる、市民の学びの場」です。オンライン開催の講座も用意していますので、全国各地からのご参加を歓迎します。詳細は、ウェブサイト、Facebook ページ等をご覧ください。

※オンライン参加の単発参加費はすべて1,000円/回(25歳以下500円/回)です。  
※オンライン参加のお申込は、moshikomif@sapporoyu.org宛に希望の講座名、お名前、ご住所、メールアドレスをお知らせください。  
※一部講座は教室受講も可能です。

### オンライン開催

#### 人も動物も満たされて生きる

##### —アニマルウェルフェア(家畜福祉)をめぐって part4

- 4月22日開講 全6回 月1回木曜19:00～21:00
- 講師:石田香織、森映子、比屋根恵、堀越啓仁、叶拓斗
- 一般5,000円 25歳以下2,500円

#### SDGsで世界は変わるのか

##### —持続可能な社会への変革のアプローチとは

- 4月30日開講 全6回 月1回金曜19:00～21:00 ●講師:大橋正明、中野佳裕、鈴木真代、萩原なつ子、今田克司、宇野重規、中西由起子 ●一般5,000円 25歳以下2,500円 ●協力:SDGs市民社会ネットワーク

#### このままでいいの? 再生可能エネルギーの進め方 part8

- 4月27日開講 全6回 月1回火曜18:45～20:45 ●講師:神代知花子、滝川康治、小坂直人、西原智昭、安田秀子、佐々木邦夫、小川拓也

#### 北海道の“核のゴミ”処分問題を考える

- 4月21日開講 全6回 月1回水曜18:45～20:45
- 講師:土屋和幸、佐藤英行、岡村聡、滝川康治、東道、NUMOの担当者

## B. 泉京・垂井から「揖斐川流域で学ぶローカル・ガバナンス(地域のお作法) 発見方法」のご案内

住民主体の地域開発・まちづくりを進めるには、地域コミュニティ、特にローカル・ガバナンス(地域のお作法)を理解することが不可欠です。本プログラムではローカル・ガバナンスとは何かを理解し、その習得方法を知ること、地域コミュニティ理解を深め、国内外を問わず住民主体の地域開発・まちづくりを円滑に進めるための根幹を学びます。

※本企画は、JICA(国際協力機構)NGO等提案型プログラムとして開催します

- 期間:2021年5～10月
- 受講料:無料(現場実習での交通費や宿泊代などが別途かかります)
- 講師:神田浩史/菊本舞/和田信明/原康子/田口龍治/田口寿子/田中正敏/永田麻紗子/三好直子/小林正美
- 年間スケジュール(予定):
  - ①オンライン講義 5～7月/10日間(全21時間)/定員50名
  - ②オンライン・フィールドワーク 7月/1日(6時間)/定員50名/2021年は岐阜県揖斐郡揖斐川町春日美東地区
  - ③現場実習 8月/岐阜県揖斐郡揖斐川町坂内諸家地区/2泊3日/定員15名程度(①と②の受講者を前提とする)
  - ④オンライン相談 8～10月
- お問い合わせ:  
特定非営利活動法人泉京・垂井  
電話 0584-23-3010  
(火～土 10:00～17:00)  
メール info@sento-tarui.org
- 詳細・お申し込み:  
<https://sento-tarui.jimdofree.com/jica-ngo>等提案型プログラム/



## C. 八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

- 5月7日開講 全5回 月1回金曜19:00～21:00 ●講師:丸山博、マインダート・ボエルスマ、マシヤット・ザーマン、レーニ・シャルバヌー、カタルジーナ・バズツサック ●一般4,000円 25歳以下2,000円

#### 学校教員による性暴力、その実態を知る

- 5月14日開講 全4回 月1回金曜19:00～21:00
- 講師:石田郁子
- 一般3,000円 25歳以下1,500円

#### 日本の植民地責任と歴史認識

- 5月24日開講 全5回 月1回月曜18:45～20:45
- 講師:小田博志、林炳澤、内海愛子、上村英明、清末愛紗

#### アイヌ民族復権に向けた歴史

- 7月3日開講 全3回 月1回土曜14:00～16:00
- 講師:竹内渉

## C. 八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

東京の西の端、八王子市を中心に市民のゆるやかなつながりの中で運営している学習グループ。2011年の東日本大震災/原発事故後の連続講座の取り組みからスタートし、様々な講座やワークショップ、上映会等を開催しています。キャッチフレーズは、「未来の人たちに手渡せる社会を選びとろう」。

「豊かさてなんだろう?～地域から持続可能な社会を考える」「『フクシマ』を忘れない講座」「私の暮らしは世界につながる」等のテーマ別講座のほか、まち歩きをして自分たちの地域を再発見して地図をつくる取り組みや、フェアトレード商品を紹介・出店販売する「くらし・つなぐストア」も運営しています。お気軽にご連絡ください。

- お問い合わせ:〒192-0082 八王子市東町3-4アミダステーション気付  
manabi.tsunagu@gmail.com  
<https://www.facebook.com/843kozapage>  
TEL:070-5567-0168  
<http://www.gakkou.org>



## D. PP21 ふくおか自由学校

自分たちの暮らしと世界がつながっているという視点から世界を知り、そのことを通して日本を、福岡を、とらえかえす場です。分断された社会につながりを取り戻すために、出会い、体験し、自らが発信していく場です。講座は6月から開講予定。詳しくはウェブページをご覧ください。

- お問い合わせ:  
〒815-0037 福岡市南区玉川1-1-6 鍼灸院えんあん内  
TEL:090-4357-7596 080-6406-9251  
ohyamayairochou@yahoo.co.jp  
<http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/>

## 受講を申し込みたい方は



1. ウェブサイトからお申し込み、またはメール・電話・FAXでお問い合わせください。

申し込み締切:**2021年5月31日(月)必着**

※締切後のお申し込みおよび途中参加についてはお問い合わせください。

2. お申し込み後、入金先のご案内をメールまたは郵送にてお送りしますので、郵便局・銀行にてご入金手続きをお願いします。ウェブサイトからはクレジット決済も可能です。受講料のお支払いをもってお申し込み手続き完了となります。先着順で定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

※入金確認のご連絡は行っていません。領収証の発行をご希望の方は、PARC事務局までご連絡ください。

3. お申し込み・ご入金いただいた皆さまには、開講日2週間前になりましたら、講座の詳細についてご案内申し上げます。



## 入学金と受講料について

◎自由学校連続講座を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。一度PARC自由学校に入学登録された方は、以降の年度での入学金は不要です。

◎お支払いいただいた入学金・受講料は、講座開講中止の場合を除き払い戻しできません。ご了承ください。

◎消費税はすべて内税です。

◎入学金・受講料とも原則として一括でお支払いください。一括入金が困難な方は、事務局までご相談ください。分割入金などご相談に応じます。

## 若者応援！U25割について

25歳以下の方は、連続講座を入学金免除にて受講いただけます。また、講座番号1～6の講座については特別割引受講料5,000円にて受講いただけます。ご希望の方はウェブサイトの専用ページからお申し込みいただくか、PARC事務局までメール・電話・FAXでご連絡ください。

## 講座の開講形態について

オンラインでご参加いただく講座と、オフライン(教室やフィールド)でご参加いただく講座がございます。開講形態の詳細は「講座一覧」ページをご確認ください。なお、オンライン講座はzoomを利用する予定です。

## PARC自由学校のシステムについて

◎連続講座の単発受講はできるの？

同年度の連続講座受講生とPARC会員の方は、越境受講料をお支払いいただくことで、他の連続講座の単発受講が可能になります。(PARCではこれを「越境受講」と呼んでいます。)また、自由学校連続講座をまだ受講されたことがない方は、2回で5,000円のお試し受講チケットをご利用いただけます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

※一部対象外の講座がございます。詳細はお問い合わせください。

◎欠席して講義を聞きそびれた！

ご自身が受講されている連続講座については、講座終了後に講義内容を録音(または録画)したデータ・配布資料をインターネットからダウンロードできます(無料)。ご都合により参加できなかった場合や復習などにぜひご利用ください。ただし、講師の事情等により共有ができない場合や、出かける回や作業が中心の講座など録音(または録画)されない講座もあります。あらかじめご了承ください。

◎オンライン講座に参加したことがなくても大丈夫？

オンライン参加にあたり、接続等に不安のある方はPARC事務局までご相談ください。接続マニュアルの送付など、ご参加のためのサポートをいたします。また、機材やインターネット環境に不安のある方は、PARC事務局にてオンライン講座にご参加いただくことも可能です。

## PARC自由学校での感染症対策について

※オフライン開催の講座については、感染症の状況により、講座日程の延期や中止、あるいはプログラムの一部変更の可能性がございます。講座中止の場合には、中止回数分に応じて受講料を返金いたします。開講日2週間前になりましたら、開催可否について判断し、お申し込みいただいた皆さまにお知らせいたします。

※講座開催にあたっては、参加者の定員を設け、参加者間の間隔確保や換気、消毒、飛沫拡散防止などの基本的な感染症対策を徹底して運営いたします。ご参加の皆様には、マスクの着用や消毒、検温のご協力をお願いするとともに、発熱がある方、体調不良の方はご参加をご遠慮いただけますようお願いいたします。



## PARCとは？

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC: Pacific Asia Resource Center) は、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をめざして様々な活動に取り組んでいます。

南の人びとの状況や国際的な課題についての情報収集や調査研究活動、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、PARC自由学校や開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通じた情報発信を行っています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくることと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。PARCは人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをめざしています。

もっと詳しく知りたい方は

より詳しい情報については、PARC自由学校ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.parcfs.org/>

PARC自由学校

検索

こちらでも情報発信中！



@parc\_jp



お申し込み・お問い合わせ

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC)  
PARC自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F  
TEL:03-5209-3455 FAX:03-5209-3453 Email:office@parc-jp.org

郵便振替 00100-2-606697 PARC自由学校  
ゆうちょ銀行 〇一九支店 (019) 当座口座 0606697 PARC自由学校

## PARC自由学校とは？

PARC自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すオルタナティブな学びの場です。1982年の開講以来、アジア、アフリカ、中南米など世界の人びとの暮らしや社会運動を知るクラス、世界経済の実態や開発を考えるクラス、環境や暮らしのあり方を考えるクラスなど、毎年約20講座を開講しています。

私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。より豊かな暮らし方や生き方のヒントが欲しい。自分らしさを表現するための技術を身につけたい。そんな人たちが出会い、学びあうのが自由学校です。

新しい視点や新しい知識に出会うと、発想が変わります。すると、これまで思っていたのとは違う世界や社会が見えてくるかもしれません。そして、今のようではない社会はどんな社会なのか、どうしたら実現できるのかを考えたくなったり、もしかしたら動き出さなくなるかもしれません。自由学校はそのきっかけとなる場でありたいと考えています。

お試し受講チケット  
2回で5,000円  
詳しくはウェブへ！